



**Sr.池崎の**

**ブラジルから**

**Boa tarde!**

(ボア タールジ! : こんにちは!)

**第17回目 11月7日(日)~11月12日(金)までのレポート**



## 11月7日(日) SETO MATSURI

今日は、クリチバで行われた「SETO MATSURI」へ行ってきました。この祭りは、クリチバ出身のクラウジオ瀬戸（左写真）というブラジルで初めての漫画家の命日に、彼に感謝しようという祭りです。今年初めての開催で、日本庭園と呼ばれる、日本の庭を形取った公園（野外）で開催されました。

お祭り内では、命日とあって、瀬戸さんの法要もステージ上で行われました（右写真）。お坊さんが、経をとる状況は、非日系の人たちには大変珍しく、ステージ周りには、大変多くの人が儀式を見ていました。実際はお祭りなので、法要はほんの一部のイベントで、ステージ上では、法要以外にカラオケ・太鼓演奏・舞踊など、日本的な出し物が多く出されたり、公園内を盆踊りで踊ったり、よさこいソーランで踊ったりと大変にぎやかでした。



また、たこ焼き（左写真）・焼きそば・寿司・弁当・定食など日本食を売る店が出店され、銘々が食事をしていました。ブラジル社会では、日本食は結構人気なので、大勢の人が出店の付近に出されたテーブルで食事をしていました。また、折り紙コーナー（右写真）、漫画を書くコーナー、木の枝（笹ではなかった）に願い事を書いた短冊を結びつけるコーナーなど日本的な体験コーナーがあったり、習字でブラジルの人の名前を漢字で書いてあげるコーナー（左上写真）が



あったり、楽しめるところも用意されていました。実は、私の知り合いが、習字で名前を書くコーナーの手伝いをしていたので、私も一緒にそこのコーナーにおじゃまして、少しでもお手伝いをしました（左下写真）。お手伝いをすることで、新しい知り合いを作ることができました。こうやって、ブラジルの人たちは、仲間を増やしていくのだらうなと思いました。



さらに、日本のお守りや日本の文字をプリントしてあるTシャツなどを販売しているおみやげ店も多く出店していま



した。とても驚いたのは、鎧甲を身につけた人が会場を歩いており、それが、なんと日系人ではなく、ブラジルの青年でした。この青年に話を聞くと、大学時代に安土桃山時代について論文を書き、その時に、この鎧甲を作ったということでした。とても上手にできていることにもびっくりしましたが、日本のことが本当に好きだということが話の端々から分かりました。楽しい一日を過ごさせてもらいました。



## 11月8日(月) GRHS(人材部署)訪問



今日は、州教育局内にある GRHS (人材部署) を訪問しました。今日の訪問で、州教育局内で私が訪問したい部署について全て訪問することになります。人材部署では、これまで州の事務局や学校を回ってきた中で、聞きたいことが数点あったので、そのことを話題にしました。

まずは、州教育関係で勤務する人の多さです。10月29日に訪問した GPS (財務企画部署) で話題になったように、州には約13万人の教育関係者が働いています。それが州の教育費に大きくのしかかっています。人数の多さの原因は3つありました。1点目は、4クラスに対して、掃除、食事、生徒をみる、事務、教務の各担当が1名ずつ計5名配置されています。20クラスの学校では、教員以外のこのような人が、25名在籍することになります。2点目は、5年経過した職員は、3ヶ月の休暇をとる権利があり、その間非常勤の職員を採用します。このような非常勤もかなり多いそうです。3点目は、最近、専門学校を増やしたので、専門教育ができる教師も増加したそうです。1・2点目については、日本の教育からは考えることができないシステムでした。部長さんも、この2点は再検討課題だと思っていらっしゃるみたいでした。

次に、教師の異動についてです。日本には、人事異動制度があります。これにより、学校に活力を与え、学校を均質化し、人の入れ替えによる情報交換ができるというメリットがあります。しかし、ブラジルでは、本人が希望すれば限りなくその学校で勤務することができます。これについては、部長さんも、頭を抱えているようで、職員を抱え込む校長がいたり、転出希望職員がいないためそこに転入させることができなかつたりという問題が発生しているそうです。日本の制度が大変うらやましいと言っていらっしゃいました。

最後に、20時間と40時間の教師についてです。たとえ2部制をとっているとしても、40時間教師が一日同じ学校で勤務することによって、教師は、その学校への愛着が出てくるものだと思います。それが、午前と午後異なる学校で勤務したり、20時間勤務のため午前と午後異なる職業に就いたりしているようでは、学校への愛着は生まれません。ブラジルの教師は、授業を行うことを目的にしていますが、日本の教師は、自分の学校で勤務し、自分の学校の生徒を育てることを目的としています。それが、教育への意欲に反映されると思います。この点についても、部長さんは、私の考えを十分理解して頂いており、昨年度より40時間で同じ学校で勤務する先生を増やしはじめたそうです。

おまけに、校長への道筋についても、日本の教育システムは素晴らしいとおっしゃっていました。この件を含め、部長さんは、現在ブラジルが抱えている問題については十分認識しており、また、それに対する日本の制度の素晴らしさも分かってみえました。その中で、何がブラジルででき何ができないのか見極めなくてははいけないとおっしゃっていました。先が見える素晴らしい部長さんでした。しかし、この方も、州の政権交代により、退職されるそうです。残念です。

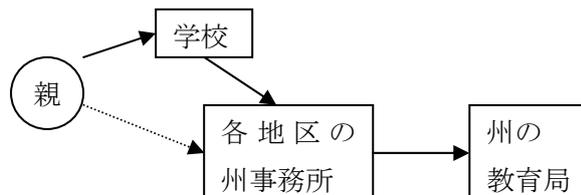
## 11月11日(木) SUDE 訪問、転入手続きについて



これまでに、いくつかの場所で、転入手続きについて話を聞いてきていますが、州全体を統括している所で、はっきりしたことを聞きたいと思い、SUDE という部署を訪問しました。

ブラジルに転入する場合、親（子）は、基本的には地区の学校へ必要書類をもって転入手続きをしに行きます。何か問題が生じた場合

に、各地区の州事務所へ行きます。「学校」「各地区の州事務所」「州の教育局」間の矢印は、書類の移動を表します。



書類については、これまでも記述した

とおり、最低限「在学証明書」「成績証明書」が必要です。ポ語に訳してない場合は、認定された翻訳者に翻訳してもらわなくてはならず、これがかなり高額のようです。ただし、書類がない場合は、子どもの年齢に相当する学年に転入します。学年を判断するテストを行うのは、ポ語が理解できる場合だけです。転入した学年では、本人のポ語の理解も含めて、不十分な学力について補完授業を行い、サポートをします。これは、日本に限らずこの国からの転入者にも同様な対応をし、子どもはその対応で大丈夫だと自信を持って言っていました。

話を聞いている間に、すごく驚いたことがありました。それは、学年制についてです。

パラナ州	他 州
5 歳→1 年	6 歳→1 年
6 歳→2 年	7 歳→2 年
7 歳→3 年	8 歳→3 年
8 歳→4 年	9 歳→4 年
9 歳→5 年	10 歳→5 年
10 歳→6 年	11 歳→6 年
11 歳→7 年	12 歳→7 年
12 歳→8 年	13 歳→8 年
13 歳→9 年	14 歳→9 年

ブラジルでは、今、小中学校を8年制から9年制に切り替えようとしています。ところが、その中身がパラナ州と他の州では異なるそうです。パラナ州では左表のように、5歳を1年生とし、他の州では日本同様、6歳を1年とするそうです。なんと、州によって、学年の年齢が異なります。日本では、信じられない状況です。ですから、日本からの転入の場合も、転入する州がパラナ州か他の州かによって転入学年が異なること

になります。しかも、パラナ州では、今、順次9年制に切り替えており、8歳の子までが9年制が適応されています。現在9歳の子は8年制が適用されているので、旧4年という扱いです。ただ、複雑なこの仕組みの中でも、基本的には転入を受け入れるとのことでした。

午後から、市評議会で、日本の教育制度について説明をしました。本来 11/3 に行う予定が延期になり、無理に今日の議題に挿入して頂きました。説明だけの 30 分間の予定でしたが、説明が終わると、質問攻めとなり、時間は大幅に延長しました。興味があることをすごく感じました。私も、市の最高機関で説明ができたことがうれしかったです。





## 11月12日(金) セレパー訪問、純心学園訪問

今日は、前半でも一度訪問したセレパーという情報管理部門を訪問しました。ここは、一般企業でありながら、州の教育局の情報管理に関するソフト開発を行っています。

今日は、その中で、設備管理システム、生徒情報（成績等）管理システム、学校経営システムについて説明して頂きました。

いずれも、ここで開発したソフトでそれぞれの情報をデータベース化し、教育活動に生かしていました。例えば、①設備管理システムでは、各学校へのインターネット導入に際して、各学校の設備状況把握を行っている。②生徒情報管理システムでは、全生徒の成績を管理し、成績閲覧や学歴書発行に役立てている。③学校経営システムでは、教員や生徒数管理から必要教員数の割り出しを行い教員配置に役立てたりしています。

前期に話を聞いた時には、すばらしい情報管理システムだと感心ばかりでしたが、今回は自分の思いが少し変わりました。このソフト開発やデータベース化のためのデータ収集には、膨大な費用がかかっています。前期にここを訪問した後、多くの学校を訪問し、現場を見た結果、ブラジルの教育予算をもっと学校に、さらに言うと子ども達が日頃活用する教材や器具に充てるべきだと強く感じました。その思いをもった今、教育に費やすお金の有効活用は何なのだろうということばかりが頭をよぎり、すばらしさを余り感じずここでの訪問を終わりました。

今日は、もう一つ、純心学園という日本語教室を訪問しました。ここは、クリチバでもかなり歴史のある日本語学校で、クリチバで知り合った日系の方が、子どもの頃通っていたと伺ったので、自分でコンタクトをとり、訪問させていただきました。

日本語を学習している経験年数別に4クラスがあり、前半は「会話」と「書き」の学習を行っていました。さすが歴史のある学校だけに、この学園自作の教材（テキスト・右写真）があり、それに沿って系統的に指導がなされていました。この学園の特徴は、二つあり、一つは、日



本語習得だけでなく心も育てたいという思いから、子ども達に掃除をさせていること（左上写真）。二つ目は、ここで学習する多くの生徒が、BOM・JESUSという有名私立校に通っている（つまりお金持ちの子だということです（左下写真の子の服が制服）。ですから、この学園の月謝も高く、指導体制も充実しているのかもしれないと思いました。子ども達は、ほとんど日系の子ですが、非日系の子も数名いて、いずれも、一生懸命日本語の学習をしていました。



まったく話は変わりますが、ここ数日、小雨や曇り空が続き、太陽が出ません。そうすると、クリチバは寒いです。右写真の人だかりの服を見て下さい。みんな冬服です。これがブラジルの11月の天候？と思ってしまいます。

